

エジプト

# カイロ大学看護学部 プロジェクト

実施地域  
カイロ



## 1. プロジェクト要請の背景

エジプトでは、医師数に比べ看護婦が不足していることに加え、看護技術の水準も低いため、医療サービスに支障を来している。このため、看護技術の向上及び看護婦養成施設の整備は、エジプトにおける保健行政上、国家的課題になっており、国家開発計画においても重点政策の1つに掲げられている。

本分野に対して、我が国は、公衆衛生看護を主体とする看護教育研究プロジェクト(1978～1983年)及び小児病院での臨床看護技術を移転したカイロ大学小児病院プロジェクト(1983～1993年)を通じて、エジプトの看護婦育成に協力してきた。

これらの我が国の協力を高く評価したエジプト側は、カイロ大学看護学部を拠点として看護教育指導者の育成と看護教育の質的向上を図るため、同学部の施設建設の無償資金協力、そしてその施設を活用したプロジェクト方式技術協力を要請した。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1994年4月1日～1999年3月31日

### (2) 援助形態

プロジェクト方式技術協力

### (3) 相手側実施機関

カイロ大学看護学部

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

看護学部の卒業生がエジプトの保健医療、福祉に貢献する。

カイロ大学看護学部が、看護教育において周辺国の指導的役割を果たす。

#### 2) プロジェクト目標

看護学部の看護教育の機能・水準が向上する。

#### 3) 成果

- a) 看護教育方法とカリキュラムが改善される。
- b) 看護教育の教員の指導・技術能力が向上する。
- c) 看護学部の運営体制が改善される。
- d) 看護図書が充実する。
- e) 看護教育用の教材の制作が促進される。

#### 4) 投入

##### 日本側

長期専門家 7名  
短期専門家 33名  
研修員受入 23名  
機材供与 1.30億円  
ローカルコスト 0.04億円

##### エジプト側

カウンターパート 11名  
ローカルコスト

## 3. 調査団構成

団長・総括：近藤 潤子 天使女子短期大学長  
看護教育：丸山 知子 札幌医科大学保健医療学部看護学科教授  
臨床看護：照井 洋子 札幌医科大学医学部附属病院看護部長  
図書館管理：根間 敦子 日本赤十字看護大学図書館司書  
協力計画：中野 勉 JICA 医療協力部医療協力第二課課長代理

#### 4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1998年10月23日～1998年11月4日

#### 5. 評価結果

##### (1) 効率性

本プロジェクトでは、当初、長期専門家の確保が困難であったが、カウンターパートの潜在的な能力が高いと判断されたため、長期専門家の派遣を抑え、その分を短期専門家の派遣、及び日本でのカウンターパート研修により対応した。

約5,000冊の看護図書と印刷機・コピー機の供与は、看護学部における教材制作技術を一新し、作業効率化を促すものであり、教員の教材制作意欲の向上に大いに役立った。

##### (2) 目標達成度

本プロジェクトでは看護教員を対象としたワークショップを30回開催し、教員の資質向上が図られた。教員は、現在の教育上の問題点を認識し、カリキュラム改善に努めている。また、供与された看護図書も学生の学習や外部利用者によって大いに活用されており、看護学部の機能・レベル向上という目標は達成されたと思われる。

##### (3) 効果

本プロジェクトは、カイロ大学看護学部の学生のみならず、他の大学の看護学科生やエジプトの保健医療分野に従事する人々にも刺激を与え、より良い看護に対する探求心を呼び起こした。

本プロジェクトにより人間の基本的欲求を重視する看護の視点が確立され、「看護システムの強化」がエジプトの保健政策に組み込まれたことも、特筆すべき効果といえる。

##### (4) 計画の妥当性

1980年代、エジプトでは、プライマリー・ヘルスケアと高度医療の導入に伴い、病院での病床数が増加し、質の高い看護婦の需要が急激に高まった。大卒看護婦の増加計画が打ち出された結果、看護婦数はプロジェクト開始時の約2倍になっている。今日でも、医療サービス向上のため、看護の質の改善が国家的課題であることに変わりはない。本プロジェクトは政府の政策とも受益者ニーズとも合致し、妥当である。

##### (5) 自立発展性

カウンターパートの定着率は高く、JICAがエジプト保健人口省協力のもと実施している第三国集団研修



専門家による臨床看護の指導



学内で行われた看護技術セミナー

(「アフリカ諸国の看護婦を対象とした「看護リーダー研修」)の講師を務めている教員も多い。我が国の協力終了後も、看護学部での教育活動の継続は可能であると思われる。また、カイロ大学が、周辺諸国に対して、看護教育の指導的役割を果たしていくことが期待される。

#### 6. 教訓・提言

##### (1) 提言

本プロジェクトでは十分な技術能力向上が得られなかったとして、エジプト側から、臨床看護技術に関する個別専門家の派遣、集団・特設研修の実施が要望されている。また、国の看護政策立案にかかわるトップリーダーを対象とした第三国集団研修の実施も要望された。それらの要望は妥当性が高く、その実施について検討すべきである。